

SUCCESS



CONTENTS

「地域連携プロジェクト型セミナー」の
取り組み 1

特色ある研究を推進する
静岡大学研究者紹介 3

〈特集1〉静岡大学のグローバル化
～日本人学生向けの取り組み～
石井学長と語る——「ABP副専攻」履修登録学生と 5

〈特集2〉活躍する学生たち
静岡大学ヒコーキ部
鳥人間コンテスト出場! 6

卒業生紹介
様々なジャンルで活躍する先輩たち 7

就職支援室の一年間
静岡大広報学生委員会(SU-NOW)取材ページ 9

私たちの研究室
教育学部 塩田研究室 11

静岡大学トピックス 13

静岡大学未来創成基金
寄附者芳名一覧 14

SUCCESS

静岡大学広報誌
「サクセス」2019 秋

発行日：2019年10月1日
発行：静岡大学総務部広報室 〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836 tel.054-238-5179

表紙 静岡大学ヒコーキ部——鳥人間コンテストに出場

解説 7月28日(日)に開催された「第42回鳥人間コンテスト2019」に静岡大学ヒコーキ部が出場しました。昨年、8年ぶりの出場となった大会では台風の接近により大会が中止となっていました。そのため、実に9年ぶりに琵琶湖の空を飛びました。11月9日(土)10日(日)に浜松キャンパスで開催する「テクノフェスタ」には、ヒコーキ部も出展し、子ども向けイベントとして鳥人間コンテストで空を飛んだ機体に乗ってみたいことのできる機体展示や、ヒコーキ部の技術を生かしたヒコーキ教室を実施する予定です。ヒコーキ部の活動に触れられる絶好の機会ですので、是非足をお運びください。

- | | | |
|-----------------------|--------------------|--------------------------------------|
| 令和元年度
10月以降の主な行事予定 | ● 10月1日(火) | 後学期授業開始 |
| | ● 11月9日(土) | 秋季オープンキャンパス(情報学部・工学部) |
| | ● 11月9日(土)、10日(日) | 第20回 静大祭 in 浜松
第24回 テクノフェスタ in 浜松 |
| | ● 11月15日(金)～17日(日) | 第70回 静大祭・農学祭 in 静岡 |
| | ● 11月16日(土)、17日(日) | 第9回 キャンパスフェスタ in 静岡 |
| | ● 1月18日(土)、19日(日) | 大学入試センター試験 |
| | ● 2月25日(火) | 前期日程試験 |
| | ● 3月12日(木) | 後期日程試験 |
| | ● 3月19日(木) | 学位記授与式(浜松) アクトシティ浜松・大ホール |
| | ● 3月23日(日) | 学位記授与式(静岡) グランシップ・大ホール |

編集後記 今号では、学生が静岡市中心市街地の活性化に繋がるテーマについてチームを組んでプロジェクトを推進する問題解決型の演習授業である「地域連携プロジェクト型セミナー」をご紹介します。静岡大学では、全学教育科目カリキュラムの見直しを進め、アクティブラーニングを積極的に取り入れた演習型の授業科目にも力を入れています。また、本誌2018年春号(vol.19)で学長と対談した澤口夏未さんがタイでの日本語パートナーズの活動を終え、あらためて石井学長と対談しました。2018年春号と併せてご覧いただくと嬉しく思います。

おもしろテクノ ゆめフェスタ
第24回 テクノフェスタ
第20回 静大祭 in 浜松
2019年 11月9日(土)10日(日) 9:30～16:00
会場 静岡大学浜松キャンパス
11月9日(土) 秋季オープンキャンパス・同窓会ホームカミングデー
入場無料

第9回 静大フェスタ
キャンパスフェスタ in 静岡
〈日時〉
2019年 11月16日(土)・17日(日)
10:00～16:00
〈場所〉
静岡大学 静岡キャンパス
おもしろ実験・体験、研究室訪問、
展示、地域連携企画など
※16日(土) 11:30～13:30(※) 生活部一斉実習
〈同時開催〉
第70回 静大祭・農学祭
11月15日(金)～17日(日)
会場に駐車場はありません。
公共交通機関をご利用ください。
【交通案内】 静岡駅前北口からの乗車
JR静岡駅北口のしずく線「静大」駅下車。徒歩約5分。美和線「静大」駅下車。徒歩約5分。東海道線「静大」駅下車。徒歩約5分。
※詳しい情報はホームページで公開しています。【静大フェスタ】 検索
【主催】 静岡大学キャンパスフェスタ in 静岡 実行委員会 公式サイト: <https://www.shizuoka.ac.jp/festa/>

静岡フェスタの詳しい情報は
ホームページでご案内しています



大学の外に出て地域・社会を学ぶ! 「地域連携プロジェクト

静岡大学は、2017年7月に「地域志向大学」宣言を行いました。2018年度からは地域・社会の課題を学ぶ機会を提供することを目的とした「地域志向科目」を全学教育科目に導入しました。地域志向科目では、講義型の授業とアクティブラーニングを積極的に取り

入れた演習型の授業を開講しています。講義型授業では、地域・社会の課題を体系的に学び、講義型授業で学んだことを踏まえ演習型授業で実践します。今回紹介する地域連携プロジェクト型セミナーは、その地域志向科目のなかの演習型授業の一つです。

地域連携プロジェクト型セミナーとは?

「地域連携プロジェクト型セミナー」とは、静岡市中心市街地(通称おまち)の活性化に繋がるテーマについて学生がチームでプロジェクトを立案し、チーム活動によってテーマに関わるプロジェクトを推進する問題解決型の演習授業です。このようなプロジェクト型の演習授業をPBL(プロジェクト型学習:Project based learning)と言います。プロジェクトを推進することは主体的な学びが求められるだけでなく、社会人生活の多くの場でも求められる活動形式であることから大学教育において注目されている授業方法です。

静岡大学での地域連携プロジェクト型セミナーを実施するために静岡の地域の皆様の大きな協力をいただいています。特に静岡市の中心市街地の活性化を推進する「I Love しずおか協議会」と連携し、

その協議会の会員企業の社員の方々とともにおまちの魅力向上や新しい価値づくり、問題解決につながるプロジェクトを立案して授業を実施しています。

地域プロジェクト型セミナーの受講を通して、受講者は実際に「学習者」としての立場で地域に出て行くことになります。「学習者」の立場で、地域に参加しそこで活動することで、目まぐるしく変わる地域・社会の課題だけでなく、自分がどのように生きていくのか、どのような地域・社会で生きていきたいのかを考えるきっかけになるかもしれません。地域連携プロジェクト型セミナーは、地域・社会に関わることに取り組んでみたいという学生だけでなく、自分のこれからのキャリア・生き方を考えてみたいといった多様な目的に対応できるように運営をしています。

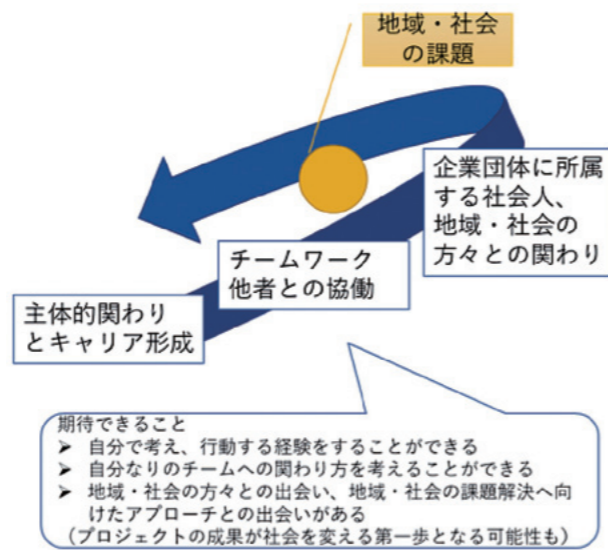
地域連携プロジェクト型セミナーでの学びの特徴

「地域連携プロジェクト型セミナー」では、当然様々な地域・社会の課題に関する知識も学習しますが、プロジェクトを進める過程で講義型授業では経験できない学びをします。

受講者は、それぞれ複数人のチームを組んでプロジェクトに取り組めます。そこではプロジェクトに関係する調べ学習を行います。知識の受け手として一方的に教えられる立場ではなく、今何が課題となっているかを自分自身で考え、その解決に動いていく立場で授業に参加をします。また、チームのメンバーやプロジェクトのテーマに関わる方々と意見交換をする機会は、講義型の授業と比べると格段に多くなります。こうした密度の濃い学習環境のなかで、それまでに思ってもみなかった考え方や手法に出会ったり、地域・社会と自分の人生との関わりを発見したりすることも成果として期待できます。

右図は、チームの一員として主体的にチーム活動に関わり、様々な人々と協力して地域・社会の課題に取り組むことによって、自らのキャリア形成にもつながっていく学びのプロセスをイメージしています。

地域連携プロジェクト型セミナーでの学びのイメージ



※授業は、人文社会科学部・教育学部・理学部・農学部・地域創造学環の2年生以上の学生を対象とした学際科目/地域志向科目(2単位)として、実施されています(地域づくり副専攻の選択必修科目でもあります)。

I Love しずおか協議会との連携

I Love しずおか協議会は、企業・商店街・大型店・行政・団体・個人などが、「オール静岡で“おまち”を元気に!」を合言葉に、中心市街地の活性化を図ることを目的に設立された団体です。本学との連携は平成25年以降続いており、今年度で7年目を数えます。



型セミナー」の取り組み

連携事例

(2017年度・2018年度)

おまちをマーケティング&プランニング!



おまちにおける百貨店のあり方やおまちを元気にするビジネスプラン作成を目指した松坂屋静岡店様とのプロジェクトです。学生たちは社員の方々から直接マーケティングやプランニングの方法を学び、おまちの強みや弱み、魅力を整理しながら、独特なプランを作り上げ、静岡店店長へプレゼンテーションを行ってきました。

また、2017年度の受講学生が、女子大生のコスメ相談のニーズを調査し、企画提案した「デパコス体験会」を2019年7月22日に学内で試験実施し、約60名の学生が参加しました。



上:企業の社員の方々とともにプランニング
右:学生の企画を学内で試験実施

連携事例

(2017年度)

大学生目線で求人広告を制作・掲載! 株式会社アルバイトタイムス



チーム内で取材・原稿について議論

静岡らしい「ゆるかっこよく働く」求人広告の制作・掲載に取り組むアルバイトタイムス様とのプロジェクトでは、求人広告の作り方やノウハウを社員の方々から学び、取材先へのインタビュー、求人広告の編集・制作に取り組み、年末年始にかけて転職サイト「JOB」に掲載しました。掲載後はアクセスやエントリーを分析し、求職者はどんなことを求めているのかを考察するだけではなく、静岡の居心地の良さや生活の豊かさ、静岡で働く魅力を再認識するプロジェクトとなりました。

2017・2018年度の実施プロジェクト

連携パートナー名	プロジェクト名
アルバイトタイムス	静岡でゆるかっこよく働いて暮らすことの魅力が伝わる求人広告をつくらう
松坂屋静岡店	次世代の百貨店プロモーション戦略を考えよう ビジネスしようシミュレーションカンパニーで地域活性化!
アイワ不動産	シェアハウスを活用して若者の交流・定住人口を高めよう
静岡新聞社・静岡放送	地域メディアが展開するフェスやスポーツイベントを通して、地域課題と向き合おう

連携パートナー名	プロジェクト名
静岡博報堂	静岡茶を元気にしよう
	静岡茶を元気にしよう ver.2
NEC ネットエスアイ	ICTを活用し、会議から働き方を変える

この2年間で、多くの連携パートナーと社員の皆様、I Love しずおか協議会の皆様からご支援いただき、大学設定テーマを含めると、11プロジェクト・67名の学生がプロジェクト型学習に取り組み、地域社会と自分自身の関わり方・あり方を考え、実社会における問題解決思考・手法を学んでまいりました。本当にありがとうございました!

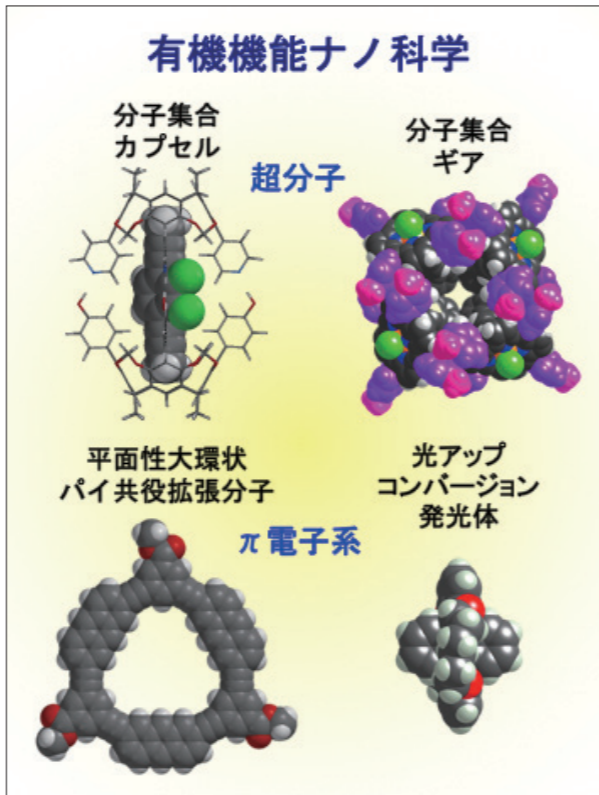
有機機能ナノ科学の探究

理学部 教授 小林 健二 (Kenji Kobayashi) ———— 有機化学、超分子化学



研究概要

私の専門分野は、有機化学です。既知の反応を駆使したり新反応を開発して、分子(物質)を生み出す学問です。中でも、分子の自己集合(自己組織化)とその機能を調べる超分子化学と、パイ電子の豊富な新規化合物の合成とその性質を調べる有機パイ電子系の化学を基軸として、有機機能ナノ科学を探究しています。



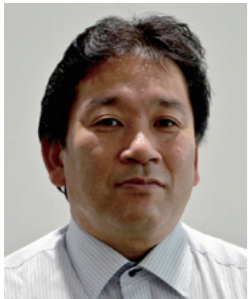
メッセージ

地方大学にあって、私達の研究を世界に向けて発信する。それには、研究テーマと学生のモチベーションの高さが大切です。私は年度初め、研究テーマの意義と世界の中での位置づけを学生に説明します。そして、時間の許す限り毎日実験室に足を運び、学生一人一人と少しでもディスカッションするよう努めています。

私のモットーは、「焦らず弛まず」と「Chance favors the prepared mind.」です。失敗を繰り返しても地道に研究を続ける中で、知識や経験を積み鋭い洞察力が身に付き、「想定外の結果」に直面したときに原石を宝石に変えるチャンスが生まれます。また、私は学生全員に年度末の日本化学会春季年会で発表するよう励ましています。「井の中の蛙、大海を知る」、学会発表後の学生たちは目を輝かせて研究に取り組むようになります。

放射線を捉える、役立たせる放射線情報学

電子工学研究所 教授 青木 徹 (Toru Aoki) ———— 放射線情報学



研究概要

「放射線が持つ膨大な情報」は、現在のところ技術的な限界でその一部を撮影してなんとかが理解できるように可視化しているに過ぎません。例えばCT再構成のデータ処理を研究している研究者は与えられた情報を最大限活用して画像化に取り組みます。ただ、その元になる情報、すなわちデータは既存のデバイスからの信号です。

人に役立つ放射線の活用を念頭に、従来の狭義の研究分野の範囲にとらわれず、放射線が持つ膨大な情報を拾い出すところから、得られた三次元情報の活用まで、横方向深く研究を進めています。具体的には化検物半導体素材開発、半導体デバイスプロセス、信号処理LSI、放射線光学系、CTを含む画像処理、三次元プロセッシングなどその範囲は「放射線」をキーワードに多岐にわたり、それぞれの分野の専門家とコラボレートしながら世界を相手に研究を進めています。

根底には電子工学研究所で培った「ナノビジョンサイエンス」の新しいサイエンスがあります。この確かな概念を基盤として、放射線情報学を切り開く研究を多数の大型プロジェクトを通じて進めています。

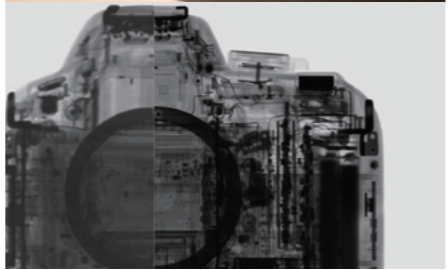
メッセージ

放射線情報学は、これまで人が理解(認識)できなかった情報を人に繋ぎ、広義の情報学を通じて人に役立つ情報とする学問です。そのためには情報学はも

ろん、電子工学も活用すれば材料工学も使う、もちろん医学や人文社会学の研究者とも連携してその構築を目指していきます。情報学はとても懐の広い学問分野です。

研究の成果は静岡大学発ベンチャー企業(株)ANSeeNを中心に広く社会に還元しています。こうして今の最先端を社会へ届け、いつの日にかはごく普通の、さらには当たり前すぎて忘れられる技術を目指します。でも、そこで得られる人と情報のコミュニケーションはどんどん拡張されて深くなっていくことでしょう。

一方で、できる限りの研究を続けていくとどんどん派生していきます。その特異なイメージング特性を得るために中性子のイメージングや発生器に挑戦したり、リアルタイム三次元プロセッシング技術はVirtual Youtuberの新しいエンターテインメント技術のバックボーンとして展開しています。幅広く奥深いこの情報学の世界で研究を大きく広げません。



試作デバイスと撮像例

アメリカ詩における「対話」の可能性を探る

人文社会科学部 教授 山内 功一郎 (Koichiro Yamauchi) ———— アメリカ文学



研究概要

私の研究分野はアメリカ文学、とりわけアメリカ詩です。概ねウォルト・ホイットマンからボブ・ディランまでの詩人による作品を研究対象としています。一研究者としてそれらを分析し論考に取り組んでいくと、当然ながら、「詩とは何か?」という問いと常に向かい合うことになります。もちろんこの問いに対する答えは多岐にわたるもの、いくつか持ち合わせていないわけではありません。しかしそれとは別に、すこしずつ研究を重ねるにつれて見えてきたこともあります。それは、詩の正体をつきとめようとするよりも、詩がもつ「対話」の機能に迫ろうとするほうが、はるかに興味深い発見につながるということです。この事実を伝えるために、拙著『マイケル・パーマー』(2015年)では、アメリカの現代詩人パーマーの代表作を取り上げました。そしてそれらと異分野の芸術作品のあいだはもとより、同時代社会の動向や思想哲学とのあいだでも生じている対話的な応答を分析したのです。その結果どんな発見があったかという点については拙著に譲りますが、この試みはまだ緒に就いたばかりです。

メッセージ

芭蕉に「子が風雅は夏爐冬扇のごとし」という言葉があります。ひとまず表面上の意味をなぞれば、「自分の風雅など夏の火鉢や冬の扇のように無用なもの

だ」といったところでしょうか。しかしアメリカの詩人ジェーン・ハーシュフィールドは、実は芭蕉がこの言葉を通して詩の本質について語っており、それが私たちの人生における経験の強度を高めてくれることを暗示しているのだと指摘しています。この一例からも察せられるように、一見すると無用でしかないものの有用さについて思いをめぐらせるために、詩は格好の素材となります。とすれば目先の利益にのみ注意を奪われがちな現代社会において、真になにが求められているのか。そのことについて考えるためにすこし立ち止まってみたいと感じる方がもしいらっしやったら、まず詩に触れていただければと常々思っています。



人工のオーロラを用いた自然界に存在しない機能材料の創製

工学部 教授 脇谷 尚樹 (Naoki Wakiya) ———— 無機材料工学



研究概要

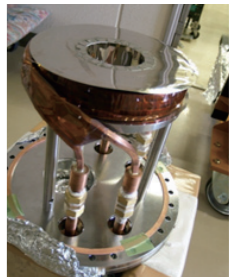
カルピスの原液をコップの底に入れてから水を注いでかき混ぜると味の均一なカルピスができます。もし、コップの底の部分から水面の方向に向かって味の濃い層と薄い層が交互に積み重なるとカルピスが自発的にできたら驚きですね。このようなカルピスを作ることは不可能です。しかし、私たちが開発したダイナミックオーロラPLDを用いて磁場中で作製した薄膜ではこのような構造、すなわち、濃度の濃い層と薄い層が自発的に交互に積み重なった構造を作ることができるのです。磁場をかけずに作製した薄膜ではこのような構造にはならず、濃度が一定となります。さらに、濃度の濃い層と薄い層が自発的に交互に積み重なった構造の薄膜は濃度が均一な構造の薄膜が示さない強誘電性という物性を発現することも見いだしました。このことは、自然界に存在しない機能材料がダイナミックオーロラPLDを用いることにより創製できることを意味します。

自然界のオーロラは太陽風(陽イオンの流れ)が地球の地磁気に沿って磁場の強い極地方に降り注ぐときに発光する現象ですが、ダイナミックオーロラPLDは類似の環境を実験室で生じさせることのできる装置、すなわち人工のオーロラ発生装置と言えます。しかし、成膜時に磁場を印加することは単にきれいな発光をもたらすのみならず、新しい材料科学の構築に道を拓くものと考えています。

メッセージ

上記の現象は今度こそ「エピタキシャル成長時におけるスピノーダル分解」として説

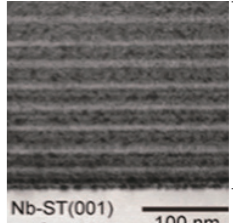
明することができますが、最初から狙っていたわけではありません。当初、私は「チタン酸ストロンチウム単結晶基板の上にチタン酸ストロンチウムの薄膜を成長させたら結晶性の高い薄膜が得られるのでは?」と安直に考えてある学生の卒業研究のテーマとして与えておりました。その学生はX線回折装置を使って作製した薄膜の結晶構造を調べたところ、「1本しか回折ピークが観察されないはずなのにたくさんのピークが観測されて不思議です」と相談に来てくれましたが、これがこの現象の発見のきっかけになりました。いわゆる「セレンディビティ」だと思っています。これ以外にも、これまでの静岡大学での研究でもう一つ「セレンディビティ」と言えそうな現象にも巡り会うことができました。AI全盛の現在ですが、やはり新しい発見は人間にしかできないと信じています。これからも一緒に研究をしているスタッフや学生と一緒に、一つでも多くの「セレンディビティ」を見つけることができるように努力をしていきたいと考えています。



PLD装置の真空容器内に組み込んだ電磁石。900アンペアの直流電流を流すと2,000ガウスの磁場が発生する。



写真中央付近の青白く輝いている部分が人工のオーロラ。物質によってオーロラの色が変わる。



薄膜
濃度が濃い層と薄い層が交互に積層した構造が自発的に生成。
基板

Nb-ST(001) substrate 100 nm

静岡大学のグローバル化 ～日本人学生向けの取り組み～

石井学長と語る——「ABP (アジアブリッジプログラム) 副専攻」履修登録学生と

静岡大学は留学生を迎え入れるだけでなく、日本人学生にも世界に羽ばたく力を身につけてもらうためABP(アジアブリッジプログラム)副専攻を開設し、日本人学生のグローバル化にも取り組んでいます。

ABP副専攻の履修をきっかけとし、国際交流基金アジアセンターの日本語パートナーズ派遣事業に選抜された教育学部4年澤口夏未さんは、タイに派遣され、10ヶ月間日本語パートナーズとして活動しました。今回は、石井学長との対談を通じ、澤口さんのタイでの体験を伺ったうえで、改めてABP副専攻について振り返り、本学のグローバル人材育成の取り組みがどのように活かされているかをご紹介します。

澤口さんは日本語パートナーズ派遣事業でタイに派遣される前にも広報誌SUCCESSの企画で石井学長と対談をしています。前回はABP副専攻で受講した授業や海外研修、グローバル人材育成のための本学の役割について対談しました。前回の様子はSUCCESS2018年春号(vol.19)に掲載されています。



●学生紹介

澤口 夏未さん

さわぐち なつみ

教育学部 芸術文化課程 音楽文化専攻 4年	2016年10月 大学2年後期からABP副専攻を履修 2017年3月 ABP海外研修II(タイ文化研修)に参加 2017年8月 ABP海外研修III(ベトナム教育研修)に参加 2017年10月 日本語パートナーズ 合格 2018年5月～2019年3月 タイで日本語パートナーズとして活動
出身地: 静岡県静岡市 出身高校: 静岡雙葉高等学校	



石井: タイではどのような活動をしていましたか。

澤口: タイ人日本語教師のアシスタントとして、タイのベツチャブリー県にある中高一貫校に派遣されました。タイ人教師と連携しながら、日本語の文法から、茶道・折り紙などの文化紹介まで、幅広い内容を教えました。

石井: 日本への関心や学習意欲などの面で多様な生徒を教えることについて大変な面もあったかと思いますが何か工夫などしたのでしょうか。

澤口: 日本語への関心が薄い生徒もいるため、その生徒をいかに巻き込めるかが鍵でした。日本語の授業に興味を持ってもらうため、仕掛けとしてアクティビティを設けました。タイはイベントが好きなので、日本の文化を紹介するために皆で習字をしたり、日本語コンテストを実施したりしました。これは大変好評でした。

石井: 10ヶ月間という長期間の滞在となりましたが、いかがでしたか。

澤口: 現地の本当の姿を見られたことが大きかったです。異なる文化で育ったため、現地の人と交流する上で分かり合えないことが出てきて、衝突してしまうこともありました。長期間滞在できたことで、周りの人と時間をかけた丁寧な関係作りができ、お互いのことを深く知れたのではないかと思います。育った環境が違うもの同士、どうしたら共存・協働していくことができるか考えることができました。

石井: ABP副専攻海外研修で受講した授業科目、ABP海外研修を振り返ってみていかがでしょうか。

澤口: 私にとってはABP海外研修で、タイの文化研修に参加したことが大きかったです。ABP副専攻については、英語で授業を受けられることや、他学部の学生と交流できることに魅力を感じた一方で、当初は東南アジアについてそれほど興味はありませんでした。しかし、実際にABP副専攻の授業を受けていくと気持ちは変わっていききました。東南アジアのビジネスや日本との繋がりについて学んでいくうちに次第に東南アジアに興味が出てきて、実際にこの目で見たいと強く思いタイの文化研修に応募しました。タイという国を自分の目で見て、授業で学んだことと本当のタイが繋がったというのでしょうか、点と点が結びついたような感覚がありました。そこから一気に東南アジアに興味を持ち、その後、ベトナムの教育研修に参加したり、日本語パートナーズに応募したりすることに繋がったので、私にとってタイの文化研修は新たな道を切り開く大きなきっかけとなりました。



日本語学科クラスの授業

石井: 授業と自分の経験を結びつけるのは難しいことだと思いますが、授業と経験が結びついたというのはどういう場面で感じましたか。

澤口: 「ABP-EN Global Business Studies」という授業で東南アジアの経済やこれからの発展についてなどを学びました。授業を受ける前は、東南アジアの経済状況のイメージが全くありませんでしたが、授業を通して将来性や発展度合いについて知り、興味を持ち始めました。実際、現地に行ってみると、高層ビルや公共交通機関などのインフラは想像以上に整備されており、とても驚きました。しかし、そのすぐ側にはホームレスや物乞いをしている子どもがいて、初めて貧富の差を目の当たりにしました。授業と自分の経験が結びつき、より深い学びになりました。

石井: 貴重な経験をしましたね。ABP副専攻を活かした今後の目標や意気込みを教えてください。

澤口: 修士研究ではタイと日本を繋ぐようなビジネスをテーマにしようと思っています。卒業後の目標としてはタイ現地で日本語履修者や、日系企業で働いている人をサポートする仕事がしたいと考えています。

石井: 日本人は比較的自分たちの狭いサークルに閉じこもりがちなおとなであり、知らない世界に出て行って現地の人と長期間生活をするとするのは大変なことかもしれません。しかし、こうした澤口さんの実体験があることで他の学生が励まされることでしょうから、澤口さんのよい経験を皆に広めたいと思います。また、本学で用意しているABP副専攻の授業や海外研修が大変役に立ったという実体験を聞け、本学のプログラムが貢献できたことを知り、大変嬉しいです。日本人学生のグローバル化に向けたプログラムについてもますます充実していきたいと思っています。澤口さんもぜひ多くの人にその経験を語ってくださいね。

活躍する学生たち——静岡大学ヒコーキ部 鳥人間コンテスト出場!

7月28日(日)に開催された「第42回鳥人間コンテスト2019」人力プロペラ機部門に出場した静岡大学ヒコーキ部。昨年、8年ぶりに第41回大会にも出場しましたが、フライト直前、台風の接近により大会が中止となりフライトすることができず、大変悔しい思いをしました。9年ぶりに琵琶湖の空を飛ぶ目標を果たした静岡大学ヒコーキ部に大会を終えての思いを伺いました。

静岡大学ヒコーキ部

2001年5月に発足し、浜松キャンパスにて人力飛行機の製作・飛行しているものづくりサークル。読売テレビ主催鳥人間コンテストの人力プロペラ機部門に出場・入賞を目標として活動している。創部当初から(単独での機体製作を開始してから)代々、主翼がパイロットよりも低い位置にある「低翼機」を製作している。

もともとは浜松の社会人チームである「チームハマハマ」と共に滑空機を製作し鳥人間コンテスト・滑空機部門に出場していたが、2006年からは静岡大学ヒコーキ部単独での人力プロペラ機の製作を始めた。



鳥人間コンテストの機体の特徴は——

今大会に出場した機体は「ビスカリア」という名前で、特徴は翼の全長が32メートルと長いことです。デザインは、水上で迷彩を発揮する洋上迷彩、つまり洋上の機体を上空から見た際、機体の色が背景の水面の色とマッチし、あたかも機体が消えたかのように見せかける配色になっています。そして、パイロットを工学部 機械工学科3年生の坪内萌さんが務めました。女性パイロットはプロペラを回し続ける体力面、パワー面で男性パイロットと比べるとハンドとなってしまっていますが、彼女にはそのハンドを覆すほどの強い思いがありました。坪内さんは、自衛隊のパイロット



になりました。自衛隊のパイロットになりましたという夢がありました。身長制限からその夢を叶えることはできませんでしたが、それでも空を飛ばたいという思いを抱き続け、必死にトレーニングを重ねヒコーキ部のパイロットとして琵琶湖の空を飛び、夢を叶えました。

出場を終えての思い——

鳥人間コンテストは、自分たちで試行錯誤して製作した機体が琵琶湖の空を飛ぶ光景を見られるということが魅力です。ヒコーキ部は鳥人間コンテストへの出場・入賞を目標として活動していますので、まず、大会当日良いコンディションでフライトすることができたということが大変嬉しかったです。昨年、8年ぶりに出場した大会ではフライト直前に大会が中止となってしまったこともあり、琵琶湖の空を飛べたという達成感により一層強くなりました。飛行距離は272.14mを記録し(人力プロペラ機部門9位)チーム記録を更新することができました。

次回大会に向けて——

第41、42回と2年連続で鳥人間コンテストへの出場を経験した現2年生が来年の「第43回鳥人間コンテスト2020(仮)」の機体を製作する中心メンバーとなります。連続出場を途切れさせないようにというプレッシャーもありますが、自分たちの機体が琵琶湖の空を飛ぶ光景を再び見るために部員一丸となって来年度の機体のコンセプトや試作に取り掛かっていきます。



ヒコーキ部の活動について

日頃は、翼班、駆動班、電装班、フレーム班、プロペラ班の5つの班に分かれて行い、その他に構造・空力設計をする部員がいます。Fusion360、jww_cad、xflr5(翼型解析ツール)、Excelなど様々なソフトウェアを用い、強度・流体解析を行いより良い機体を作ろうと団結して活動しています。一見、工学部所属の男子部員ばかりかと思われるかもしれませんが、情報学部の学生や女子部員も在籍しています。長期休暇には趣味の合う部員で出かけたりなど、普段はみな和気あいあいとしながらも、機体製作には真剣に取り組んでいます。

ヒコーキ部の活動に触れるには——

鳥人間コンテスト以外では11月9日(土)、10日(日)に浜松キャンパスにて開催されるテクノフェスタで大会に出場した機体の展示とヒコーキ教室を開催します。子ども向けの企画となりますが、機体展示では実際の機体に乗ってもらい、ヒコーキ教室では子どもたちでも作ることのできるプロペラ機を作って、実際に飛ばしてもらおうことができます。少しでも飛行機について知り、関心を持ってもらう機会となれば嬉しいです。他にも随時、ブログやTwitterなどでヒコーキ部の活動を配信しているので、ぜひご覧ください。

テクノフェスタ(静大フェスタ)についての詳細はホームページにてご確認ください。

卒業生紹介 様々なジャンルで活躍する先輩たち 静岡大学の

●なぜ、進学先に静岡大学を選びましたか

①静岡県東部で育ち、②農業や環境に興味があり、③入学できそうな偏差値だった、この3つが静岡大学を選んだ理由です。ただ、今思い返すと、講義・フィールドワーク・実験等のカリキュラムはとても充実していましたし、多くの県外人学生がいたことや3年以降は留学生との接点があったことは、私にとって良い刺激になったと感じています。

●どんな学生生活を過ごしましたか

大学1～3年生は講義・アルバイト・遊びの三拍子でしたが、研究室配属を機に微生物研究漬けの毎日になりました。朝から日を跨いで実験を行うことも多かったのですが、仕事に対するスタンスはこの時間のおかげでできたと思います。丁寧に指導して下さった小川教授をはじめ、一緒に励んでくれた先輩・同期・後輩には感謝の気持ちしかありません。

●なぜ、今のお仕事を選ばれたのでしょうか

仕事を選んだというよりも、廃棄物処理という「環境保全に繋がる事業」「人の当たり前の生活を守っていく事業」「誰もやりたがらない、だけど必ず世の中に必要な事業」を行っているミダックに魅かれて、「この会社に入りたい!」という気持ちをもったことが入社を決断した理由です。

●現在の職業に就かれてよかったことは

廃棄物処理の最前線で働く社員の「働く環境」を守るための仕事をしていると自負しています。人事という採用活動をイメージされやすいですが、それ以外にも労務管理・労働安全衛生・諸制度の整備・等々を通じて、社員が公私において「安心して仕事・生活ができる環境を提供する」という重要な役割があり、そこにやりがいを感じます。

●本学在学中を振り返って感じる。静大生(後輩)へのメッセージは

卒業から丸7年が経ちましたが、様々な喜怒哀楽があり、それを周りにいてくださった方たちと共有できたことは私の大切な財産です。学生でいる時には気づ

かなかったことも、長い時間を経て実感することがたくさんあります。目の前にある時間を大切にしてください。

●学生時代に「こんなことをやっておいたほうが良い」と思うことは

採用活動でも学生から良く聞かれる質問ですが、これというものは思い浮かびません。ただ、よく食べ・よく寝て健康でいること、勉学と仕事とプライベートに励むこと、家族や友人と過ごす時間を大切にすること、入社前の内定者にはこれらをお願いしています。

●これからの後輩学生に「こんな授業が必要ではないか」と思うことは

【体の健康】はもとより、当社も管理職をはじめとする全社員への継続教育として企画している【ラインケア・セルフケア】という【心の健康】について考えていただくことも大切だと思います。知識や経験も大切ですが、心身を整えることも仕事に必要不可欠です。

●在学中、印象に残っている授業や先生(恩師)は

恩師は、農学部 環境微生物学研究室の小川直人教授、鮫島玲子准教授です。特に小川教授からいただいた「なんのために研究をしているのか、よく考えて」という言葉は、今でも印象に残っていますし、常に頭において仕事にも活かしています。

●学生時代のサークル活動やバイトの経験談など

サークルには所属せず、北関東～大阪の間で好きなバンドのライブを回っていました。アルバイトはCDショップで約4年、その他に塾講師やイベントスタッフも経験しましたが、その全てをライブにつぎ込んでいたので常に金欠状態・ただ、様々な土地に行けたことや人と繋がれたことは今でも良い思い出です。

卒業生・修了生、その人の魅力と素顔に迫ります。

●なぜ、進学先に静岡大学を選びましたか

高校時代の恩師に、将来モノづくりに関わる仕事を志すなら静岡大学を検討してみてはどうか、と紹介していただいたことがきっかけです。工学部のある浜松市は「ものづくりのまち」として知られており、自動車メーカーや医療機器メーカー等、世界的に注目されている企業と共同で研究を行っていることが印象的でした。

●どんな学生生活を過ごしましたか

現役の工学部生の方も感じているかもしれませんが、講義や課題に追われる日々を送っていました。特に週に2回の実験講義は前後課題があり、非常に苦労した記憶があります。そんな中でも部活動やアルバイト、趣味の時間を確保するために夜更かししたりもしました。

●静岡大学の卒業(修了)にあたり、将来について考えたことは

高校時代に抱いていた「モノづくりに関わる仕事をしたい」という将来像は、在学期間を経て「自分自身が中心となってモノづくりをけん引したい」とより具体的なものへと変わっていきました。自らモノづくりの企画・開発・販売まで一貫して関わることが将来の目標となりました。

●なぜ、今のお仕事を選ばれたのでしょうか

就職活動中に就職ポータルサイトで目にしたことがきっかけです。もともとは浜松市周辺の企業への就職を考えていましたが、他の自動車メーカーと比較して、規模は小さいながらも技術力の高さで存在感を放つ職人のような企業だと感じ、その中で活躍したいと考えました。

●現在の職業に就かれてよかったことは

現在私はマツダ株式会社の目指すVisionを描いて、そこにいたる道筋を技術視点から提示し、選択する技術企画部という部署に所属しています。日々、会社の将来を左右する難しい業務に追われていますが、会社の意思決定に関わっていることにやりがいを感じています。今後はモノづくりをけん引する企画領域の上流であるこの部署で、中心となって活躍できる存在になりたいと考えています。

●本学在学中を振り返って感じる。静大生(後輩)へのメッセージは

●学生時代に「こんなことをやっておいたほうが良い」と思うことは
大学生生活期間は自分がやりたいことに時間を気にせず没頭できる最後の期間だと感じています。在学中を振り返ると、あの時言い訳せずにやってあげばよかったという後悔がいくつかあります(バイクで北海道へ行く、海外留学に行く等)。はじめから自分で制約を作らず、やりたいことの一覧を卒業までに全部やってやる!という思いをもって学生生活を送ってほしいと思います。

●これからの後輩学生に「こんな授業が必要ではないか」と思うことは

現在、日本の製造業は良いものを作るだけでは選んでもらえない、という難しい問題を抱えています。モノづくりに関して、技術や製品を自らの言葉で伝えるプレゼンテーション力は欠かせないものとなっています。そのため、語るエンジニアになるための「技術プレゼンテーション講義」が必要ではないかと考えます。

●在学中、印象に残っている授業や先生(恩師)は

音情報処理研究室の立蔵先生には大変お世話になりました。特に、毎週持ち回りのプレゼン形式勉強会での経験は、現在の私の業務において資料作りや話し方などの考え方の基礎となっています。ちなみに、エンジニアのプレゼン力に関する考えは立蔵先生の受け売りです。

●学生時代のサークル活動やバイトの経験談など

生活費と趣味に使えるお金を増やすために、アルバイトを2つ掛け持ちしていました。飲食店アルバイトを大学1年生の春から卒業直前まで勤め上げました。また、賄いが出るため食費が浮いて非常に助かりました(笑)。もう一方は深夜の駐車場管理のアルバイトで、仕事の合間に自由な時間が多かったので課題や読書をしていました。いい条件のアルバイトはないか、フリーペーパーには必ず目を通していましたね。

Yuki Tokura

戸倉 由貴

(静岡県立三島北高等学校 出身)
プロフィール
1987年生まれ
2012年3月 静岡大学大学院 農学研究科
共生バイオサイエンス専攻 修了

2012年4月 株式会社ミダック 入社
職種: 事務職(人事)
趣味 = 旅行(温泉、食べ歩き)、ライブ
好きな言葉 = 「明日やろうは、ばかやろう」



友人と岐阜県へ旅行に行った時の写真です。下呂温泉名物の足湯。食事とても美味しかったです。



職場(浜松アクトタワー 24階)から見える景色。浜松の駅北を一望することが可能です。また天気の良い日には、富士山を見ることが出来ます。



2020年度の入社内定者と先輩社員の交流会の様子@富士宮事業所。仕事の話よりも趣味や大学の話などで盛り上がりました。

Shintaro Miyazaki

宮崎 真太郎

(長崎県立島原高校 出身)
プロフィール
1991年生まれ
2015年3月 静岡大学 工学部 電気電子工学科 卒業

2015年4月 マツダ株式会社 入社
職種: 商品戦略本部 技術企画部
趣味 = 趣味:自動車・バイク整備
好きな言葉 = 「枯れた技術の水平思考」横井軍平



クセのある先輩方とは、プライベートでも交流があります。



初めて購入した車で祖母とドライブ。オープンカーの魅力に取りつかれてしまいました。



会社ロビーにて、新型車と私。前部門ではこの車のプレーキ開発を担当しました。

就職支援室の一年間

静大広報学生委員会〈SU-NOW〉取材ページ

- ・全学インターンシップガイダンス〈4月〉全学年
- ・集団面接対策講座など〈4月〉【静岡】学部4年/修士2年
- ・インターンシップマッチング会〈5月～6月〉全学年

いずれのキャンパスでもインターンシップの参加を考える学生向けの大規模なガイダンスや、実際にインターンシップを実施する企業を招いて行うマッチング会を開催します。そして静岡では、いよいよ就活本番を迎える学生のための面接対策講座も開かれます。就職相談室の利用者数ピークは浜松だと3月、静岡では4月になるそうです。

Spring



インターンシップ
ガイダンス(浜松)



就職相談室〈静岡〉

- ・公務員試験対策〈7月〉【静岡】《学部4年》
- ・インターンシップ事前研修会〈7月〉【静岡】《全学年》
- ・Tour De Hamamatsu〈8月〉【浜松】《学部1～3年》

静岡では公務員志望の学生が多いため、面接試験等の対策を行っています。夏休みに入ると大きなイベントはありませんが、就職相談室にはエントリーシートの書き方や公務員試験の対策をしたい学生がよく訪れます。浜松では主に学部1,2年向けの浜松企業バスツアーを開催し、8月下旬には県内企業との個別面談会を浜松キャンパス内で実施します。

Summer

学生の相談を受けるカウンセラーは、現役で企業の人事を担当されている方や元教員の方など様々。詳しくは静岡大学就職支援のホームページをチェックです！

Q. イベントを開催する上での工夫や心がけなどを教えてください！

A. 毎年学生たちの様子は異なりますが、特に近年は企業の動きが前倒しになっているので、積極的に情報収集する学生にはひと足早く情報が手に入るよう開催時期を調整しています。

Q. 両キャンパスの就職支援室のつながりやスケジュールの違いについて知りたいです！

A. イベントの様子や来場者数などの情報交換は常に行っています。業界上、浜松の方がインターンシップマッチング会の時期が早く、静岡は公務員志望者の動きによる波があります。

Q. 就職相談室にはどのような学生が相談しに来るのでしょうか？

A. ほとんどがインターンシップや就職を控えた学部3,4年生ですが学部1,2年生もいます。時期によって相談に来る人数は異なりますが、毎月たくさんの方が訪れますよ。また卒業してから4年間は在学生と同じように相談室を利用できます。本番直前に慌てて相談に来る人が多いので「今の自分には必要ない」と思わずに情報を集めて「とりあえず行ってみよう」と就職支援室に相談しに来てください。学生一人ひとりに納得できる進路を見つけてほしいです。

取材・編集

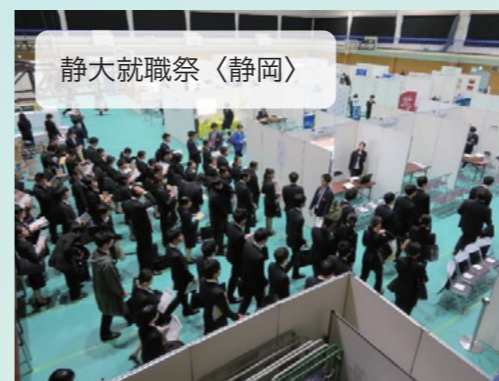
人文社会科学部3年 宮澤かれん 人文社会科学部2年 田口実花子
理学部1年 新井璃子 人文社会科学部1年 大野ほのか

- ・インターンシップ事後研修会〈10月〉《全学年》
- ・就活リスタートセミナー〈10月〉【静岡】《学部4年/修士2年》
- ・就活ガイダンス〈10月〉【浜松】《学部3年/修士1年》
- ・就活の進め方〈11月〉【静岡】《学部3年/修士1年》
- ・業界研究・自己分析セミナー/SPI対策講座など

新学期からは就活に役立つ各種講座や、就活をリスタートする学生向けのセミナーなどを開催します。浜松では10月、静岡では静大祭のあとに3年生や修士1年生に就活の進め方を教えるガイダンスも開かれます。

Autumn

「静大ではどんな就職支援が受けられるんだろう?」「何してるのかよく知らないし、ちょっと近寄りたいたいかも……」「就活準備なんてまだ先の話!」というそのアナタ! 就職支援室が静大生とどんな一年間を歩んでいるのか、私たちと一緒にのぞいてみませんか?



静大就職祭〈静岡〉

- ・保護者のための就活セミナー〈11月～12月〉
- ・Tour De Hamamatsu〈2月〉【浜松】《学部1～3年》
- ・静大就職祭(学内合同企業説明会)〈3月〉《学部3年/修士1年》
- ・ES書き方講座/集団面接準備講座など《学部3年》

保護者のための就活セミナーには、県内外からセミナーに興味を持たれた保護者の方が足を運ばれます。3月の静大就職祭は240社もの企業が集まるとも大きなイベントです。様々な企業の説明を聞くことができる貴重な機会なので毎年多くの学生が訪れます。静岡の相談室は冬になると相談者が減りますが、期末試験後にはまた相談者が増えていきます。

Winter



学内合同企業説明会〈浜松〉

★静大生のための情報・相談室の利用予約はこちら!

キャリアス UC 静大版
<https://uc-student.jp/shizuoka/>



★静岡大学就職支援ホームページ

<http://www.career.ipc.shizuoka.ac.jp>



広報学生委員会からのお知らせ しずっぴーのLINEスタンプ発売中!

静岡大学のキャンパスキャラクター「しずっぴー」がなんとLINEスタンプになりました! 広報学生委員で会議を重ね作成しました。表情豊かな40種類のスタンプを使って静大トークをもっと盛り上げよう!

LINE STORE内クリエイターズスタンプで販売中!

こちらから購入できます→



教育学部 塩田研究室 (教育工学研究室)

↓NPO法人まちなびや発行「コドモンデ」で、塩田研を紹介していただきました！



塩田 真吾 准教授

からあげと甘いものが大好きな、とてもやさしい先生です。学生にも、ときどきアイスをくれます♪静大11年目です。

基本DATA

研究分野 教育工学・授業デザイン

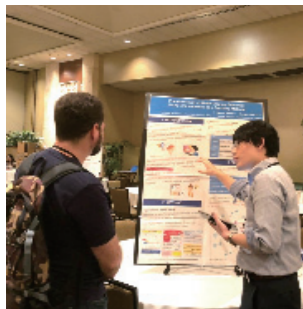
「社会とつながる授業」をテーマに、現代的・社会的課題の授業デザインについて工学的に研究しています。特に、情報モラル・セキュリティ教育、ICT・遠隔教育、キャリア教育などに取り組んでいます。

メンバー

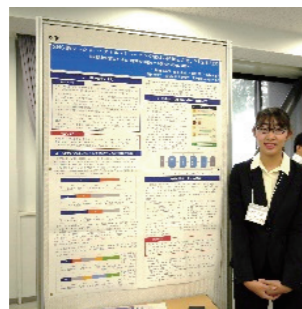
- 学術研究員 1名
- 研究補佐員 2名
- 大学院生 3名
- 学部生 7名

卒業生の進路

- 小・中学校教員
- 公務員
- 一般企業
- など...



院生は必ず国内・国際学会で発表



研究室のメンバーでBBQ



OB・OGも仲よし

研究の概要

現代的・社会的課題をどう教えるか

現在の学校教育では、国語や数学などの教科教育だけでなく、情報や環境、キャリアなど、様々な現代的・社会的課題を教えています。しかし、これらについて学校での教え方は定まっておらず、「どのように教えるのか」という課題があります。

塩田研究室では、これらの課題に対し、「自覚」をテーマに研究しています。特に情報教育では、自覚を促すために「認識のズレ」に着目し、自分と相手が認識する「嫌なこと」のズレや「不適切な写真」のズレ、「使いすぎ」のズレなどを実感させることで、「自分もトラブルにあってしまうかも」というトラブルへの自覚を促す教材を開発しています。



↑「嫌なこと」、「不適切な写真」の認識のズレを実感するカード教材

企業との共同研究

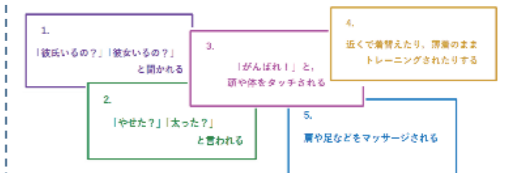


LINE×塩田研

2014年度から、インターネットとの上手な付き合い方やコミュニケーション方法について「自ら考える」ことを目的にした情報モラル教材の開発に関する研究を、LINEと共同で行っています。

カスペルスキー × 塩田研

2017年度から、カスペルスキーと共同研究を行い、中学生や高齢者を対象としたセキュリティ啓発教材「ネットのあやしいを見きわめよう」を開発しました。



JOC×塩田研

2018年度から、日本オリンピック委員会 (JOC)と共に、オリンピック指定強化選手を対象として、セクハラ・パワハラ等のリスクに対する自覚を促し、リスクとのつきあい方を学ぶための教材を開発しています。

静大発ベンチャー企業

塩田研究室のメンバーを中心に運営している、一般社団法人「プロフェッショナルをすべての学校に」が静大発ベンチャー企業として認定されました。

本団体のミッションは、テレビ会議を使って全国の学校(特に、普段プロとつながるのが難しい「へき地」にある学校)と企業をつなぐことです。キャリア教育として企業と学校をつなぐ、遠隔授業を行っています。



第4期静岡大学研究フェロー及び若手重点研究者 称号記を授与

第4期(2019~2021年度)静岡大学研究フェロー及び若手重点研究者に選定された教員に対し、4月3日に静岡キャンパス、4月9日に浜松キャンパスにて称号記の授与を行いました。本学は第3期中期目標期間(2016~2021年度)においても、自由な発想の下に基礎研究を推進し、多様な知の蓄積を図るとともに、本学の強み・特色を更に生かし、世界に羽ばたく創造的研究の推進を目標としています。そして、そのためには研究成果の発信を拡大し、競争力のある研究推進体制や国際的に通用する人材の育成環境を創っていくことが重要と考えています。



静岡キャンパスでの授与式後(2019.4.3)



浜松キャンパスでの授与式後(2019.4.9)

「研究フェロー」には、卓越した個人研究のみならず、学際・未踏研究の組織的推進の中核的な人材として若手教員の育成も含めた活躍を、「若手重点研究者」には、本学の次代を

担う研究者として高い目標と独創性を持ち、新しい流れを起こす、意識の高い人材としての活躍を、大学として強く期待しています。

新プロジェクト「スクールインターンシップ」本格始動

教職センターでは、学校現場における実践的教育が不十分であるという教員専修免許状の課題に対して、教員を強く志望する大学院生が実際に学校現場において自己課題をもって授業や諸活動等の活動を通して「実践的指導力の育成」を図る新プロジェクト「スクールインターンシップ」を全国に先駆けて実施しています。

教員を志望する学生が実践的指導力の育成を図ると共に教員志望への一層の意欲を高めることが期待されます。



「スクールインターンシップ」プロジェクト全体研修会の様子(2019.6.10)

静岡県立榛原高等学校と連携協定を締結

教育学部では、7月16日(火)に、カリキュラム開発、教職員研修、教育実習等における相互の連携と人材育成を目的とした相互連携に関する協定を静岡県立榛原高等学校と締結しました。この協定により、同校生徒のキャリア教育のほか、教職員の研修を同学部等が受け入れる一方、学生の教育実習先、調査研究の協力校として同校との連携が可能となります。

今回の連携協定締結は、同様の協定としては同学部として初めてのケースで、今後双方の人材育成に大きく寄与するものと期待されます。



締結の様子(2019.7.16)

静岡大学未来創成基金寄附者芳名一覧

(五十音順)

静岡大学未来創成基金にご寄附をいただきまして、心より御礼申し上げます。
ご厚意を賜りました皆様へ感謝の意を込めまして、ここにご芳名を掲載させていただきます。

(個人)

青木 弼 様	浅井 明子 様	渥美 忍 様	阿部 浩幸 様
井口 一成 様	伊佐 真行 様	泉水 朝順 様	磯貝 佳子 様
伊藤 悟 様	稲村 啓子 様	岩倉 宏之 様	岩崎 一孝 様
岩山 正巳 様	臼井 章 様	大久保 進 様	大島 勲 様
太田 有紀 様	岡本 尚道 様	小倉 裕二 様	小黒 源紀 様
落合 暁雄 様	梶野 二郎 様	狩野 直喜 様	上條 勝弘 様
川口 香奈 様	木村 元彦 様	紅林 秀都司 様	桑原 士郎 様
高野 英彦 様	石代 晃司 様	小山 芳明 様	近藤 真 様
斎藤 克博 様	佐伯 善貴 様	左口 治良 様	定方 理 様
澤田 潤 様	嶋 宏昭 様	下村 勝 様	杉浦 邦一 様
杉本 章 様	砂子 了一 様	高木 聡子 様	高島 寛之 様
高松 良幸 様	立岡 浩一 様	田中 武 様	玉貫 勝美 様
津村 潤 様	寺田 雅芳 様	永島 達矢 様	中村 京市 様
浪崎 匡史 様	西原 正樹 様	二宮 愛実 様	野口 靖浩 様
許山 秀樹 様	芳賀 利允 様	長谷川 進 様	畑中 靖通 様
服部 博子 様	蛭田 陽一 様	福田 直樹 様	福田 宏昭 様
藤井 彰 様	藤井 邦彦 様	藤井 良昭 様	藤江 哲夫 様
藤田 利明 様	藤田 正晴 様	藤波 達雄 様	古田 昭彦 様
本田 聖 様	松浦 定洋 様	松田 宏 様	松原 広幸 様
間瀬 勝彌 様	三村 清行 様	三村 秀典 様	村上 良男 様
村木 美彦 様	村田 秀人 様	山崎 修司 様	吉田 誠裕 様
葦津 賢一 様	吉野 勝也 様	吉村 修二 様	渡邊 郁雄 様

(法人等)

一般財団法人鎌倉フェローシップ 様	株式会社静岡アグリビジネス研究所 様
静大文理同窓会有志9条の会 様	地学研究会 様
はごろもフーズ株式会社 様	矢崎化工株式会社 様

※ご芳名は、原則平成31年2月1日から令和元年7月31日までの間にご寄附いただき、公開についてご承諾いただきました方について掲載させていただいております。
なお一部、クレジット等含めご入金日より、前回掲載分に間に合わなかった寄附者の方々と、今回ご入金の確認ができた方につきましては、掲載させていただいております。ご入金が未確認の皆様については、今後、ご入金の確認ができ次第、順次、広報誌に掲載させていただきます。

静岡大学未来創成基金について

静岡大学未来創成基金へいただいたご寄附は、寄附者の皆様のご意向に沿い、有効に活用させていただきます。
主な用途は以下のとおりです。

- ・学生奨学支援
- ・国際交流事業
- ・学術研究支援
- ・キャンパス整備
- ・修学支援事業
- ・特定基金事業

※静岡大学未来創成基金の詳細は、ウェブサイトをご覧ください。

静岡大学学長室

電話：054-238-4402
E-mail：kikin@adb.shizuoka.ac.jp

未来創成基金ウェブサイト

<https://wpp.shizuoka.ac.jp/fund/>

